平成 30 年度知事定例記者会見［抜粋］

平成 30 年 4 月 19 日 知事定例記者会見［抜粋］

〇司会

発表項目は以上になりますけれども、知事から加えて何か発言、コメントがありましたら、お願いします。

〇知事

新幹線について、私のほうから一言だけ申し上げたいなと思います。

いろんな報道などを見ますと、JR九州さんが与党PTで言った話の中で、割と全線フル規格というような形の報道がなされております。しかし、整備新幹線というスキームは国が勝手に決めるものじゃありません。皆さん方わかっていらっしゃると思いますけれども、佐賀県が「うん」と言わないのに、1,100 億円の負担を国がとか、与党がとか、少なくとも政府や与党が「フルでやりますよ」と言って、決められるものではありません。私が自分から積極的に何かを訴えることをしないのかと聞かれたりしますけれども、それは、フル規格新幹線というものが合意されていないからで、逆に言えば、佐賀県がそのボタンに同意しなければ動かない話なのです。そこを、知事が何を言ったって国がどんどん進めてしまっていいると思われるのは、そうではありません。

ただ問題として、県民の利益を考えながら、佐賀県がこれからどういう主張をしていくのかというのはありますけれども、少なくとも我々を無視して進める話ではないということは、これはもちろん国にも確認とっていますし、とるまでもないことなんですね。整備新幹線というのは、そもそも地元のぜひやりたいという声を受けて、その中でどういうふうにやっていくかというスキームなのです。そこのところの認識を持っていただきたいと思い、あえてですけど、話させていただきました。

さきほど新幹線について、国が勝手に決めるものではないとか、何も合意していないというふうに私が申し上げたというふうに書いてありますけれども、別に挑発しているわけではなくて、もちろん今までフリーゲージトレインのときに、私の前の知事の段階で合意していますよね。その合意について、みんなで汗をかいてやったということについては、私は尊重しようというふうに言っているわけですね。ただ、今回、新たに出てきたフルについては、何ら共通の土壌というものができたわけではないし、うちとして特に要望したものではないので、むしろこういう流れというのを当惑しているんだと申し上げたところです。

平成 30 年 5 月 15 日 知事定例記者会見［抜粋］

〇サガテレビ

九州新幹線について、この前の金曜日、今月 11 日に都内のほうで検討委員会に参加されましたけれども、その場で知事が囲みを対応されているときに、同時で山本委員長のほうが、どうやら報道によると開発主体がもうフリーゲージの導入は困難であると正式に言われたようで、もう本格的に整備方針の選択肢がフルかミニかという2択に迫っているようにも感じるんですが、改めていかがでしょうか。

〇知事

そうですね、フリーゲージを断念ということについては全く説明を受けていないので、よくわかりません。技術開発が困難だということは、それは私としても理解できないことはないわけですけれども、そもそも、このフリーゲージトレインの導入というのは国のほうから提案があった話だというふうに承知しています。そのフリーゲージという姿は、県内を二分するような、もともと鹿島、太良の分を武雄、嬉野に振り替えるという大きな路線の転換でしたが、西九州全体を考える中で、非常に厳しい状況の中で受け入れたわけです。今はまだ国のほうでこのフリーゲージの開発は続いておりますから、見守っていきたいというふうに思っております。

〇佐賀新聞

新幹線の話で、先日、与党PTが開かれて、一通り、佐賀、長崎、JR九州のヒアリングが終わったかと思うんですけれども、与党PTの考え方として、秋ごろまでには一定の整備方針を示したいという考えもあるかと思うんですが、佐賀県として今後どのような対応をしていかれるのか、国の対応を待っておられるような状況なのか、そのあたりの今後の見通しについてお願いします。

〇知事

基本的に、我々のほうから特に何かを動くという状況じゃないと思っています。ただ、あのPTの中でも、ミニ新幹線についてどう考えるのかと聞かれたわけですけれども、特に、我々は、モデルケースというか、小さいディテールをなどの説明を受けていないので、検討を行っている状況にはないということです。

これからまた、国から何らかのアプローチがあれば、そういったことも含めて我々としての検討はさせていただくと思います。

〇佐賀新聞

そうすると、国からのアプローチがあれば検討していくということで、佐賀県のほうから国への説明を求めたりとか、先ほどもミニ新幹線について説明を受けていないということを言われましたけれども、佐賀県のほうから説明してくれとかというアプローチ

はせずに、あくまで国からのアプローチを待つということになるんでしょうか。

〇知事

待つというか、我々は6者合意に基づく、平成 34 年度の武雄乗り換え方式の開業の準備に全力を尽くす。少しでも武雄、嬉野地区が、暫定開業まで、そのときに多くのお客さんに来ていただくようにということに専心したいと。

〇NHK

新幹線の関係で、これまで与党PTの後で、山本委員長、その後のぶら下がりでフリーゲージトレインは実質的に難しいというふうに断言なさっていて、今後の与党PTの議論は、一旦、山本委員長が預かりになって、どうやら今後はフルとミニを中心に議論していこうということになっているようなんですけれども、これ、このまま佐賀県がミニとかフリーゲージトレインについての可能性とか、自治体の姿勢とかを言わないままですと、あとは検討会の判断に委ねるという意思表示だというふうにとられかねないというふうに思うんですけれども、これ待っているだけじゃなくて、何らかそのアクションを起こしたほうがよいのではないかと、私は個人的に思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

〇知事

せんだってのPTでの我々の答えは、地元の強い気持ちがあって、合意がないと整備新幹線はできないよということです。そしてこれまで佐賀県と長崎県はそうやって、平成4年、19 年、28 年と3回合意をしながら前に進めてきたわけなんですね。ですから、我々とすると、選択肢とか言われても、フル規格の新幹線というものについて、せんだって受け入れられる状況じゃないという話もしましたし、ミニについても検証した結果、受け入れられる状況ではないということも考えられると思います。

そうした場合については、また新しい提案があるのか、ないのかということになろうかと思いますし、少なくとも我々とすり合わせなしに、PTのほうで独自に何かの決定がされるということはないと思っています。

〇佐賀新聞

新幹線の質問に補足で伺いたかったんですが、先ほどミニ新幹線について、国から何らかのアプローチがあれば検討したいというふうなことだったんですけれども、これはミニ新幹線に限ったことですか、それともフル規格も含めてあらゆる提案、アプローチがあった場合は検討するということでしょうか。

〇知事

もちろんフルでもミニでも、そのほかの方法でも、提示があったものについてはしっかり検討していきたいとは思います。

フルにつきましては、特にフルという提示があったわけじゃありませんけれども、長崎県さんですとかJRさんが、ああいうふうにお話になられたので、それにあわせて、我々なりに検討して、我々なりに検証して、効果をせんだって報告させていただきました。

ミニについては、そういった話は承っていないので、今の時点で検証していないということです。ですので、何か提示があったことに関して、それに対して佐賀県の考え方を提示することについては真摯に対応していきたいと思います。

平成 30 年 7 月 12 日 知事定例記者会見［抜粋］

〇西日本新聞

九州新幹線長崎ルートについてお尋ねをします。

フル規格で整備した場合のルート案について、JR九州の元社長が、時短効果が少ない佐賀にメリットが必要だということで、鹿児島ルートの船小屋駅から佐賀空港を経由するというのを提唱しています。お金も現状の整備よりはかなりかかるとは思うんですが、こうしたルートを変えるということでの提案について知事のご所見をお願いします。

〇知事

基本的に、フル新幹線については莫大な費用負担の問題というのはかねてから申し上げておりますし、そもそも財政の問題だけでなくてルートの問題、これを議論したら、かなりの時間をかけて検討しないといけない話だと思います。そして何よりも、今の在来線というものがどういう形になっていくのかという問題もあるので、早々に方法が出るという状況じゃないと思うのです。私はフル新幹線というものについては、こういう状況の中では今議論する環境にないということはかねがね申し上げております。

〇西日本新聞

あと、この問題では、県内のルート沿線の武雄、嬉野両市、きのう、この両市を含めて、沿線ルート5市、佐賀、長崎両県ですね、5市が自民党本部と霞が関で、国交省及び財務省にフル規格での整備を要望しました。県内、知事はこういう莫大な財政負担は県は到底持ちこたえられないというご認識ではあるんですが、県内の自治体でこうしたフルを求める声があることについて、これはどのようにお答えをなさるんでしょうか。

〇知事

それぞれお考えがあってのことなので、それぞれが自立的に思いを言うところはいいことだと思います。ですので、それぞれの思いの中で行動されたのかなとは思いま

すけれども、やはり私はこの佐賀県のこれまでの経緯を考えると、常に苦渋の決断をして、さまざまなものをある意味犠牲にしてできてきた構図でもあるので、武雄、嬉野にとってみれば、今回のルート変更でも一つの大きなチャンスでありますから、それが鹿島とか、非常に厳しい状況のもとで成り立っていることに大きく思いをはせなければいけないと思います。県はしっかり今回の暫定開業が、武雄、嬉野に大きな効果となるように支援していきたいと思うので、ぜひそういった意味で、考え合わせてご検討いただければと思います。

〇佐賀新聞

国政課題について２点お尋ねします。

まず、九州新幹線長崎ルートの話なんですけれども、前回、６者合意のときにフリーゲージトレインの開発おくれで合意されたかと思うんですが、その際に知事として譲れなかったラインというのがあって、そこは守られたのかなと思っているんですけれども、前回の６者合意のときに知事として、ここは守られてよかったと思っている点はどこなのか。

それと、今回も同じようにフリーゲージトレインのおくれで新たな動きがありますけれども、今後、７月中に与党検討委員会で結論が出る中で、佐賀県として守りたいラインというのはどのようなものがあるのか教えてください。

〇知事

大体これまでの議論でわかっていただいているという気もいたしますけれども、もともと佐賀県は、少なくともフル新幹線をやろうと言ったことは今まで一度もないわけです。その中で、長崎県さんとの関係とかも含めて、西九州全体の中で、のめるぎりぎりのラインを、各県の知事なり県庁職員が悩みに悩んだ上でつくってきた合意の連続だったと思います。ですから、３者合意のときでも、フリーゲージ、これは国から提案があったわけですね。それで、負担は大きいけれどもやろうじゃないかと、武雄から向こうだけでも、それこそ交付税措置を抜いても 220 億円、230 億円の負担。しかも、これから何か追加されるかもしれないという報道もなされている状況です。

そうした中で、フリーゲージが開発おくれになる。えっと思うけれども、国は国で努力して、安全が第一だから、無茶は言えないだろうという中で、佐賀県はどこまでおりるんだろうということで議論した。やはり我々は肥前山口も大事なので、肥前山口と武雄温泉、そして武雄温泉から佐世保線のほうですね、向こうに向かってしっかり充実――有田方向も大事なので、武雄温泉－肥前山口間の複線化を順次やっていくということは、これからの佐賀県にとってとても大きなことだろうということで、再度調整してあそこに入れたということ。

それでも、武雄温泉以降の話が、乗り換え方式ということで、そもそも佐賀県が考えていた大阪直通という話にはならないわけで、いろんな思いがあります。ただ、そこ

までずっとずっと佐賀県は長崎県、そして九州全体のことも考えてやってきた歴史があるわけですね。今回は全て佐賀県のエリアですから佐賀県の話です。ですから、もともと整備新幹線のスキーム自体が、地元がやりたいと言って手を挙げたものに対してどうするかというスキームであったはずなのに、一番大事な合意というものが、その合意もこれまではそんな簡単にできているわけじゃなくて、ずっとずっといろんな交渉をしながらできてきた道なんですね。ですから、そういった基本線というものをやっぱり大事にすべきではないのかなと。一朝一夕に短時間に、ああだからこう、こうだからああ、というふう感じになる事柄ではないと思います。

特に、今回の財政の問題もそうですけれども、先ほど説明したように、本当にいろんな事業をこれから重点的にやらなければいけない時期だと思いますので、あれかこれかという事業選定をしたときに、この問題の位置づけというものはおのずと見えてくると思います。

〇朝日新聞

すみません、関連して九州新幹線の話なんですが、一部でフルが無理ならミニしかないというような声も漏れ伝わってきています。ミニについては、県としては正式な案が何か示されているわけではなく、案が出されれば検討するという立場であったと思いますが、改めて今の段階でのミニについての知事のスタンスをお伺いしたいと思います。

ミニもメリット、デメリット、整備時に在来線を運休しなければいけないというような問題もあると思います。もちろん追加の負担があれば受け入れられないという立場であると思いますが、ミニについてのスタンスをお願いします。

〇知事

これまでの経緯は今述べさせていただきましたけれども、どのような整備手法であれ、合意にないものについてこれ以上の追加負担を行うことはできないものと思います。今、国やJR九州が約束したことを守れないということで、何かフルかミニか二者択一みたいなことを佐賀県に求めるような論調になっているところもあるようですけれども、私は佐賀県はこのどちらか選ばなければいけない立場にないと思います。

我々はさらにこういった議論を注視しながら、新たな提案があった場合は佐賀県の考えをしっかりと主張していきたいという考えです。

平成 31 年 1 月 23 日 知事定例記者会見［抜粋］

〇佐賀新聞

私から最後ですが、九州新幹線長崎ルートの未整備区間の整備方式に関してなんですが、知事は選挙選で透明な県政を掲げて当選されているというふうに理解して

いるんですけれども、選挙が終わった後、長崎県知事、山本幸三委員長、来られましたが、相次いで非公開であったという状況で、山本委員長に関しては面談の内容すら明らかにされていません。そういう状況の中で、県政課題の重要な案件なんですけれども、今後も相手側のほうから非公開を要望されればそういうふうな対応をされていくのか、知事の考えをお願いします。

〇知事

少なくとも、中村知事においても、山本委員長にとっても、まず会うということ自体はしっかり公開というか、お話しさせていただいているということです。そして、さまざまな調整をするという中で、これは交渉する中で、先方が、例えば、いろんな案を出されたりとか、いろんな考え方を言われたときに、全面公開の中でやっていくということ自体はなかなか、特に今回の新幹線というのは複雑な方程式なので、簡単にはいかない。そして、佐賀県は多くの課題がある。非常に困難な課題、特に、単に財源の問題だけではなくて、我々にとっては本当に大事な在来線の問題、そして、ルール自体、全く議論されたことがないし、そして、地域振興としての問題、そういったところに全てまたがる問題だからという主張は、どちらさんに対してもさせていただいたところです。ただ、相手さんがどういう主張をされて、どういうことを考えておられるのかについては、先方のほうでクローズにしてくれというお話があるわけだから、私のほうから全部しゃべるということは、なかなか交渉の相手として信頼されないところがあるんじゃないのかと。今、日露交渉をやっておりますけれども、一言一句、お互い言ったことということは、さすがに公開できないところなんではないかなと思います。